

明久(ウルトラマンギンガ)×ハイスクールD×D 異世界物語

T&Y—Tiga

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

僕とギンガSとStrikersの続編として投稿しました。

まだ終わってませんが書きたいと言う衝動で書いたので

どうかそこはおおめをお願いします。

目次

プロローグ

あれから5年後と始まる物語

1

明久の二年間

7

プロローグ

あれから5年後と始まる物語

ギンガとビクトリーと他の10勇士達が協力し「超時空魔神 エタルガー」の脅威からミッドチルダを守り抜きその戦いから数日が経った後で地底世界から始まった戦いでは異次元人ヤプールと全宇宙の支配を企むジユダ・スペクターを僕とショウそしてウルトラ兄弟の力によって阻止された。

戦いが終わり僕はその世界で出会った”二人の女性”と結婚し一人の”小さな女の子”を養子として引き取り平和な日々が始まると僕はそう考えていたけど、実際はそうでは無かった。

あれから5年の間、ミッドチルダにはチブル星人「エクセラ」が遺していった多数の怪獣や宇宙人のスパークドールズがこの世界で一度復活した暗黒の魔神「ダークルギエル」を完全に倒した事によってルギエルの呪いが完全に解けスパークドールズにされていた怪獣や宇宙人がミッドチルダで実体化したり宇宙空間を漂っては他の管理世界へと流れ着いてそこで実体化して暴れまわるようになっていた。

更にここ最近では今まで見たことのない怪獣が現れるようになってウルトラマンギンガ「吉井明久」は調査に向かっていた。

その日、明久とウルトラマンギンガはある惑星で一匹の怪獣と戦っていた。

「グギャアアアン!!」

ギンガ「シエアッ!」

熔鉄怪獣デマーガ 本来ならこの世界には存在しない筈の怪獣がウルトラマンギンガと激闘を繰り広げていた。

ギンガ「ショウラアッ!!」

デマーガ「グギャッ!」

ギンガがデマーガの頭部を両手で掴み上げそのまま背負い投げを

してデマーガにダメージを与える。

ギンガ「くっ！やっぱりこの怪獣は僕の知らない世界の怪獣だ！どうしてこうも怪獣が現れ続けるんだ。」

明久は戦闘中に思わず口に出す。

このデマーガと言う怪獣もそうだが今まで戦って倒してきた怪獣は今まで明久が見たことない怪獣ばかりだった。

それに加えて

デマーガ「グルルルルウウツ・・・」

デマーガの目は赤一色に染まっており身体にはまるで虫に刺されて身体に腫れ物の様な物が浮かび上がっていた。

ギンガ「一体・・・何が起きてるんだ」

それでもデマーガはギンガに襲い掛かる

デマーガはその口に生える鋭い牙でギンガに噛みつきこうとするが

ギンガはそれを両手で掴み抵抗すると素早く右腕にデマーガの頭部を押しえ込む。

ギンガ「考えるのは後だ。一先ず今はこいつを何とかしないと!!」

デマーガは口から赤い熔鉄光線を発射するがギンガは

それをジャンプしてかわす。

その隙を付きギンガは右足にエネルギーを集中して放つ

強力な飛び蹴りを繰り出す。

ギンガ「ギンガメテオキイック!!シヨウラアツ!!」

デマーガの弱点でもある頭部の発行部分に

ギンガの必殺キックを受けデマーガはぶっ飛び大地の上を転がり回る。

ギンガ「よし！行くよギンガッ！フツ…ハアアアアアッ！」

右手、左手、突き出して重ね合わせると弧を描くように回転

ブループラスマエナジーで全身のクリスタルが

一層蒼く美しく輝く

広げられた両腕を、素早くL字に構えたその時・・・

ギンガの最も得意とする必殺光線が炸裂する！

ギンガ「ギンガクロスシユートオツ!!」

シユオオオオオラアアアツ!!!

アツ!!!

デマーガ「グアギイイイイツ!!!? グゴアアアアアアアアツ!!!」

ギンガ「オオオオオオオオオオツ———ダアアアアツ!!!」

グツと力を一層込められたクロスシユートに耐えきれず後退していき

体内に流し込まれたブループラスマエナジーが炸裂しデマーガの全身が蒼く輝いて…

デマーガ「ゴツ・・・ギヤアアアアアアアアアアツ!!!」

ンンツ!!!

ドオオオオオオオオオオオオ

熔鉄怪獣は木端微塵に粉碎され爆発した・・・

もしかしたらスパークドールズなのかとも思い爆発の跡地を確認するとそこにはスパークドールズは無かった。

ギンガ「やっぱり、あの怪獣はスパークドールズじゃなかったか。もう少しこの辺りを調べてみよう」

ギンガはそこから歩いて離れていく

「ギイイイイ・・・」

それから数分がたった頃

ギンガ「やっぱり手掛かりは無しか。いったんミッドへ戻ろう。皆、心配してるだろうし」

明久は一度ミッドチルダへ戻ろうとした、その時

「ギイイイイツ!!!」

明久「えっ!?!」

ギンガの背後から空から何か巨大な黒い昆虫の様な怪獣が尻尾前

に出し突き刺そうとを襲い掛かって来たがギンガはそれを避ける

ギンガ「何だ!?!あの怪獣は!!」

昆虫怪獣は地上に降り立つとその近くの地底から砂が勢い良く噴き出しそこからまるでクワガタの顎を持つ怪獣「磁力怪獣アントラー」が姿を現した。

ギンガ「マズい、アントラーまで・・・」

すると昆虫怪獣は自分の尻尾をアントラーの身体に突き刺す

アントラー「ギイゴアアアアアアっ!!!」

アントラーに突き刺した尻尾から何かを流し込まれそれを終えると尻尾を抜きアントラーは地面に倒れた。

ギンガ「いったい何をしたんだ」

昆虫怪獣は両目の部分を赤く光らせると倒れたアントラーの両眼も赤く光り、立ち上がるとさつき倒したデマーガと同じ様に目の部分が赤く染まり身体も同じ様に腫れ物が浮かび上がった。

ギンガ「さつき倒した怪獣と同じだ!!」

そして昆虫怪獣は再び目を光らせるとアントラーも同じ様に光りギンガに襲い掛かって来た。まるで操られている様に

ギンガ「まさかあの怪獣は他の生き物を操る事が出来るのか!?!」

昆虫怪獣の恐ろしい能力を目の当たりしたギンガは昆虫怪獣がとても恐ろしい怪獣だと直感した。もしこんな怪獣を野放しにしたら大変な事になる

ギンガは昆虫怪獣が逃げる前に倒そうとするが

ギンガ「くっ!!早くあいつをなんとかしないと・・・」

背中の翼を広げ逃げようとする黒い怪獣をギンガは止めようとするがアントラーに邪魔をされ足止めを食らう。

ギンガ「マズい!!このままだと逃げられる!!」

そこへ

「ビクトリウムスラッシュ!!」

黄色いV字型の光弾が昆虫怪獣に命中し落下していく。

それと同時にV字型の特徴的な黄色のクリスタル「Vクリスタル」を持ちカラータイマーもV字型となっている赤と黒の巨人が降り

立った。

シヨウ「大丈夫か明久!!」

明久「こっちは大丈夫だ。それよりシヨウそっちの奴を頼む!!」

ビクトリー「任せろ明久!!」

ギンガはアントラーをビクトリーは黒い怪獣に挑む

ギンガ「シヨウ!そいつの尻尾には気を付けろ!!そいつは相手に尻尾を刺さすとその相手を自分の操り人形にしてしまうんだ!!」

ビクトリー「何だと!!」

ギンガ「実際にこの目で見たんだ このアントラーもそいつに操られている」

ビクトリー「ならこいつは絶対に逃がす訳にはいかないな」

ビクトリーは距離を取らずに接近して尻尾を突き刺す隙を与えないようにする

だが

「ギイイイッツ!!」

ビクトリー「どわああああ!!」

ギンガ「シヨウ!」

黒い怪獣は口から火球を発射しビクトリーを吹き飛ばす。

その隙に昆虫怪獣は背中の翼を広げ宇宙へ飛び立ってしまった。

ギンガ「くそっ! ギンガセイバー!! シェアツ!!」

ギンガはクリスタルを白一色にしてホワイトプラズマエナジーの力で右腕のクリスタルから生成する光の剣ギンガセイバーでアントラーを切り倒すと黒い怪獣を追撃するために宇宙へ飛び立った。

ギンガ「逃がすか!ヘヤアツ!!」

飛び立っていくギンガを見つめるビクトリー

ビクトリー「明久・・・」

昆虫怪獣を追うギンガは宇宙空間で見つけると追撃戦を開始した。

ギンガ「何処だ?・・・いた!!ギンガスラッシュ!!」

ギンガはクリスタルが紫一色にしてパープルプラズマエナジーの力で頭部から放つ光刃で

昆虫怪獣の翼の付け根を撃ち両翼を破壊された昆虫怪獣はギンガ

を狙う

ギンガ「追いつめたぞ・・・何?！」

何とそこには数十の同じ個体の昆虫怪獣が待ち構えておりさらにその向こうにはまるで

蟻や蜂などにいる女王のような一回り大きい個体がいた。

ギンガ「まさかあれは・・・奴らの女王?！」

女王の個体は他の個体をけしかけ大群をギンガへ攻撃をさせようとする。

ギンガ「来るか・・・なら・・・来い!!！」

ギンガも臨戦態勢にはいる。すると突然、ギンガと大群と女王の間に時空の裂け目が現れ

双方を飲み込もうとする。

ギンガ「うっ、ま、まずい!引っ張られる!う、うわああああ!!！」

まるでブラックホールのようにギンガと昆虫怪獣軍が吸い込むと裂け目はゆつくりと閉じていく。

そこへ遅れて駆けつけた来たビクトリーは吸い込まれる寸前のギンガを発見する。

ビクトリー「明久ああ!!！」

ビクトリーは必死に手を伸ばしギンガも手を伸ばそうとするがその手を掴めず

ギンガ「シヨウ!!皆の事を・・・頼むううう!!！」

ギンガはそのまま時空の裂け目に完全に吸い込まれてしまい裂け目も閉じてしまった。

一人残されたビクトリーは助けられなかったギンガに向かって叫ぶ

ビクトリー「明久・・・明久ああ!!！」

明久の二年間

やあ皆こんにちは

僕は吉井明久です。

僕はある時、突然現れた謎の次元の裂け目に飲み込まれた僕は別の宇宙の地球へと流れついてあれから二年の月日が経ちました。そして僕が一番最初に驚いたのはどういう訳なのか24歳だった僕の身体が何故か15歳の頃の僕へと若返っていたのには流石にビックリしたよ。

どうやらこの宇宙の地球にはウルトラマンや怪獣、宇宙人は存在せず代わりにこの地球には様々な神話体系が実際に存在しており超常の神々や悪魔、堕天使、妖怪、北欧とその他にもドラゴンを筆頭に様々な架空の生き物が実際に存在しているという

何ともファンタジーなところをだなど最初は驚いたっけ・・・

だけどその存在はこの星の裏側で存在しており、この星の人間達はそれらが存在していることを知らない。というより知る事が無いのだ。

そんなこの地球へと流れ着いてしまった僕はまず最初に悪魔と堕天使が住む世界「冥界」である一人の悪魔の女性「グレイフィア」と出会った。

グレイフィアはかつて冥界を二分にして統べていた旧魔王派という派閥に所属しておりその中でも王であるルシファーに仕える家系だったが狂気並な程の好戦的な派閥だった為そのやり方に付いていけなくなった彼女は双子の姉と一番弟子と一緒に旧魔王派と対立していた平和を望み種の存続を優先しようと動いていた新魔王派へ亡命しようとしていたところを姉と弟子を逃がす為に囮となって追われているところで僕と出会ったのだ。

事情を知った僕はグレイフィアを新魔王派がいるところまで護衛として行動を共にしていたがその途中でなんと旧魔王派の悪魔の一人があるアイテムを使い新魔王派がいる街へ多数の怪獣を召喚し進撃を始めてしまった。僕はウルトラマンギンガへとウルトラライブし

たった一人で多数の怪獣相手に善戦するが他性に無勢の言葉通り徐々に追い込まれてしまう。

そして怪獣達の猛攻の前に僕とギンガは力尽き倒れてしまうが自分達を必死に護ろうと戦っていたギンガの姿を見ていた新魔王派の人々は必死にギンガに声援を送る。

誰もがウルトラマンの勝利を信じる人々の想いが次元の壁を越え一筋の光がギンガへと降り注いだ。

それは明久が行方不明の知らせをウルトラマンノアから受けノアの力を借りてギンガへストリウムブレスを届けに現れたウルトラマスタロウだった。

ストリウムブレスを手にした僕はギンガをギンガストリウムへとパワーアップし怪獣達を何とか倒し新魔王派の人々を護り抜いた僕は新魔王派のリーダーであるサーゼクスや墮天使の総督のアサゼル等から”冥界を救った光の英雄”として称えられるようになった。

この一件でグレイフィアは僕に好意を寄せるようになり既に保護されていた姉と弟子に別れをした後に僕に仕えたいとお願いされ僕は断ろうとしたがグレイフィアの願いに根負けし僕に仕えるようになりサーゼクスからはお礼として人間界に僕の住居を提供されこの星で暮らす事になった。

その後で新しく出来た住居でグレイフィアから主従契約魔法を施され僕とグレイフィアは主従の誓いを交わし身体を重ねた。

だがこの事件を切っ掛けに様々な怪獣や侵略宇宙人達が裏側の各地や各世界に出現し暴れ始めた。おかげで僕はウルトラマンギンガとして活躍する機会が多くなってしまい各種族や勢力からも余計に注目されるようになってしまった。

それからは僕はなのはとフェイト達が僕を見つけてくれるのを待ちながらグレイフィアと一緒に暮らし賞金稼ぎとして暮らす傍らで裏側の各地や各世界で現れる怪獣や侵略宇宙人から人々を守る為にウルトラマンとして戦っていく内に僕は色々な種族の王や長と出会

い交流を深め、更には主に女性・・・しかも美少女や美女果てには”あるうっかり精霊”のお陰で別の異世界へ飛ばされもしたけどそこでもその世界で出会った人達と協力して事件、戦いを終わらせたりました。

その最中に別の星の王女や女神等、様々な事情を抱えている彼女達を救い出した事でもその全員に好意を寄せられグレイフィアの勧めで主従契約を交わし今では所謂ハーレムを作ってしまった。

仕事では僕がリーダーでありチーム名は「エクス・クロス」

意味は人間の僕がリーダーで他のメンバーは悪魔、妖怪、天使、戦乙女、教会、精霊、退魔剣士、ドラゴン、女神と構成されていて、名前の由来も立場や出身世界も十人十色の人が集まっていることから、交わりを意味する記号（X）と言葉（クロス）を掛け合わせたんだ。そのメンバーは以下の通り

メイド長であり僕がいない時はリーダーを務める

元悪魔、銀髪の殲滅女王 グレイフィア・ルキフグス

グレイフィアの一番弟子であり同じく悪魔

副メイド長 アモン

元SSランクのはぐれ悪魔

妖怪の猫又の上位種・猫？ 黒歌

天界の元熾天使（セラフ）候補生筆頭

ベルダンデイとアフレイア

日本の山形にある雪女の城にいた

雪女 葵

北欧出身で閃光のヴァルキリーと呼ばれた

戦乙女 アスナ・フローリアン

タカ派の北欧種族の悪神ロキが秘密裏に産み出した

人工戦乙女 カサンドラ

元教会所属で接触禁止の戦聖女と呼ばれた

サテライザー・ストラトス

黒歌の知人であり同じく猫？で野井原の緋剣と呼ばれた

妖怪 野井原緋鞠

はぐれ研究者達が人工的に生み出した

大精霊 ミユゼ

はぐれと妖魔によつて全滅した元退魔剣士隊所属月氷姫と呼ばれていた。

人間 皇レイ

五大龍王の1匹で、龍王の中で唯一の女性のドラゴンであり僕の使
い魔 天魔の業龍 ティアマット

僕に懐いてしまった子供ドラゴン三姉妹

ツーヤ、セレーネ、ミント

別の星、惑星アースにあるアスガルド王国軍の元將軍で第一王女

人間 ブリコンヒルデ

ブリコンヒルデの義理の妹であり元ヴァルハラ兵団ワルクューレ
ヴァクターの指揮官

女神 アナスタシア

僕は彼女達と共に暮らしていく中でそしてやっとなのは達から連絡が来て向こうから送られてきた転送装置でなのは達と再会したけど今の僕の現状を見たのはとフェイトからO・H A・N A・S H Iを受けた後に彼女達の事情を話しそれを快く了承してくれた二人は明久に元の世界とこちらの世界を行き来できる転送装置を使い交流しあつた。

(特にヴィヴィオという娘がいた事にグレイファイア達は驚いてはいたがヴィヴィオの出生やある事件の事を知り明久とは血はつながってはいないがお互いが本当の娘以上に愛情を持っている明久や本当の父親以上に大好きなヴィヴィオの事を知りグレイファイア達もヴィヴィオの事を愛情もって可愛がっている。ヴィヴィオ本人も母親や妹が一気に増えたことに大変喜んでいた。)

さてと僕のこれまでの事や説明をしたけど次からは僕がもう一度

高校生活の話を送る話が始まるから皆、楽しみにしてね。